

## 「キリスト教学校教育」2026年3月号 特集『平和教育の実践』加盟学校アンケート 回答一覧(4)

### 5、平和教育を行うことや続けていくことで、課題と感ずることはありますか

小学校回答：P.1 中学校・高等学校回答：P.2-5 大学・短期大学回答：P.5-6

※ 回答の終わりにある( )内は、学校が所属する教育同盟の地区名

#### 〔小学校〕5件

◇平和を創り出すことが児童の自発的な活動になっているか、教師から与えられているものになっていないか。 (関東)

◇現在の世界の状況は、聖書の神が平和の神であることを伝えにくくしている。 (関東)

◇・平和は視点をどこに置くかで、見え方が変わってしまう。どちら側にも立たず、客観的に両者を見ていく視点を保っていくことはとても難しいことだと思います。  
・子どもたちの思いが、ちまたの情報や、声の大きい誰かの考えに偏ることがないように、敵と味方という構図にならないように教師の舵取りが大切になると思います。 (関東)

◇それぞれの思いが強く、思想に触れるので、柱を作ることが難しい、かといって、柱が無ければ、各自が勝手気ままに平和教育に携わることになる。そうになると、教育効果は半減してしまう。まずは、教師が同じ方向を向けるように、全員で主軸を作り上げることが大切。しかし、その主軸づくりが最も難しい。 (関東)

◇・「戦争はいけない」「平和な世界を創る」ということが、言葉だけの理解となっている。  
・遠いところの出来事で、自分ごととなっていないこと。  
・年々、教員の平和教育への熱が薄くなってきていること。 (西南)

## 〔中学校・高等学校〕 28 件

- ◇若手の教員も含めて、教員の平和への意識と学習。 (東北・北海道)
- ◇クリスチャン講師の候補の把握と共有。 (東北・北海道)
- ◇戦争体験者で、かつ生徒に直に話してくれる人が減っていること。 (東北・北海道)
- ◇戦後 80 年というなかで戦争経験者からの直接お話を聞くことが難しくなっていること  
です。 (東北・北海道)
- ◇目的や意義 (関東)
- ◇今の日本は、恐怖をあおって軍事力強化をしようとしているところがありますが、軍事  
力強化で不安を解消しようとすることはますます疑いと不安の中に身を投じることだか  
ら、そこに陥ってはいけないというメッセージをどれだけ真剣に発信し、剣に頼る道を  
止められるかを課題に感じています。「人を恐れず、神を恐れなさい」という主イエス  
のメッセージにある通りですが、その信仰にどこまで本気で立ち、本気で伝えられるか  
どうか、問われているように思います。 (関東)
- ◇探求学習の実践の中で「平和」とは「戦争」や「国際問題」の解決を通してもたらされ  
るものだという固定観念が生徒、また教員の中にも存在します。そのため「平和」につ  
いて探求し、取り組むということと授業の実践を結びつけることに課題を感じている。  
(関東)
- ◇本校では今のところ、生徒たちも積極的に参加し、大きな課題を感じていない。(関東)
- ◇・近い将来、被爆証言者からお話を聴けない時が来ます。今後の「ひろしまの旅」をど  
う発展・継続するかは、大きな課題です。  
・生徒が主体となるプログラムを今後も企画する必要があります。また現実世界の問題  
は多様性があり複雑であることを踏まえ、「正解」はないこと、自分たちにできること  
を見出す姿勢を持つことも大切だと思います。時流に流されるのではなく事象に主体的  
に心開いて向き合い、他者とのコミュニケーションの上にもどのように新しい知見を拓い  
てゆくか、問われていると思います。 (関東)
- ◇ヒロシマの被爆者の証言を伺うことが、難しくなっています。 (関東)
- ◇年度によって参加者の人数にばらつきがある。戦争を体験された方が減り、今後どのよ  
うに当時を生きた方々の声を伝えていくか。 (関東)
- ◇・被爆者の高齢化、戦争体験者の減少。  
・生徒が自分のこととして戦争をとらえきれないこと。 (関東)

- ◇・身近な戦争体験者が少なくなっていること。  
・本来は正解などない物事に対して、色々な感想を出し合い、聴き合い、語り合える場があると良いのだが、本校は生徒数が少ない(一クラス2~5名程度)ため、一つの内容を学習した際にも多様な感想に触れることが難しい。(関東)
- ◇被爆者や戦争体験者が年々いっしょらなくなるので、今後キリスト教学校同志でどのようなプログラムを連携していけるのか、模索する必要があります(たとえば、広島や長崎の高校生平和大使とのプログラムを検討するなど)。(関東)
- ◇・第二次世界大戦の経験者から直接お話を伺うことができなくなっていること。  
・生徒たちの中に、戦争についての話、画像などに強い拒否反応を示す人がいること。  
・過去の戦争の悲惨さを知ることと、生徒たちの現実の生活での平和に関連性を持たせるのが難しいこと。(関東)
- ◇修学旅行などは学年行事でもあるため、学年によって様々な思いやアレンジもある。キリスト教学校としての理解の一致をはかることが大切であり、課題でもある。(関東)
- ◇継続の中で、毎年このテーマを扱うこの映像、この話を必ず入れるといった形式の踏襲が目的化すると、戦争や世界情勢が、考えるための問いではなく、使い回される教材になってしまいます。  
また、大変よく聞くのが、「正しさ」を教える教育になりやすい。戦争を扱うとき、「これは悪い」「こう考えるべきだ」という結論を急ぐ語りになりがちです。(関東)
- ◇教員間の温度差。(関東)
- ◇平和教育の定義づけが難しいだけでなく、この世には、さまざまな平和観がある。その中で、キリスト教学校は、聖書が指し示す平和を礎として、一般的な、いわゆる戦争と対になる平和を語ってゆきたい。しかも、そこで語るだけ、学ぶだけで完結することなく、本校では、他のキリスト教学校が考える平和や、キリスト教学校以外の学校の平和観に触れる機会を意識的に持っている。また、地域の方々との交わりや討論会などへ積極的に出席し、平和のセンスの違いがあることを知り、改めて、聖書が示す平和を捉えなおしてほしい。(関西)
- ◇国語や社会、英語の教員と連携して平和に関する教材を取り上げて、生徒たちに様々な角度から平和について考えてもらうようにしたいが、なかなか連携が取れない。(関西)
- ◇・戦争が過去のものになる(自分事としてとらえられない)危機感  
・語り部の不足(関西)
- ◇戦争経験者の話が直接聞けなくなるなど、昔話になりつつある時間的な課題。(関西)

◇他国による反日教育と外国籍生徒との関連性 (関西)

◇・学校とは異なる立場の意見を生徒に紹介することが十分に出来ていない。  
・日本の加害の歴史を学ぶことも大事にしているが、そのことを外部に発信することに年々難しさを感じてきている。 (関西)

◇やはり、フィールドワークをする際の交通費等が課題である。(能登支援に行くときには教職員が生徒たちのために献金をしてくれた。) (関西)

◇管理職や教員のキリスト者が減少し続けており、キリスト教の救済に対する理解度が低い。礼拝は現在は生徒以外、全てキリスト者によるため礼拝の内容にぶれはないが、今後、キリスト者だけで行えなくなれば、礼拝の奨励が道徳色を帯びた講話になることが危惧される。毎朝(月～金)、全生徒、全教職員対象に守られている礼拝が授業時間確保(進学実績UP)の名のもとに変更を要求されることが予想される。平和教育を維持する上で日々の礼拝は本校の建学の精神における要であり、それがどこまで維持できるかが心配である。 (西南)

◇戦争がない状態が「平和」であるわけではないが、戦争体験者からの直接の証言を聞く機会が年々少なくなっていること。 (西南)

◇・長崎に育っている生徒は、慣れっこになっているところがあるので、発達段階に応じて心に染み込む、記憶に刻む、考え方や思いに残る機会とできるよう、教育活動を展開することに留意すること。

・幸いにも、県外校との交流の機会もあるため、被爆地長崎からの発信をどう継続していくかということ。

・卒業後につながりにくい「平和の学び」

学校で平和について深く学び、主体的に活動した生徒であっても、卒業後、社会人として平和教育や平和活動を継続していくための「場」や「仕事」は決して多くはない。結果として、学校で育まれた思いや問題意識が、社会の中で十分に生かされにくい現状があると感じる。

・地域社会における平和活動は高齢化が進んでおり、学校現場とのつながりは強い一方で、20代から50代の働き盛りの世代が継続的に関わるのが難しい社会的環境も課題となっている。時間的・経済的制約の中で、平和活動が「特別な人のもの」になってしまいかねない現状が見られる。

・学校教育と社会的要請のはざままで揺れる生徒の判断

平和教育の一環として、生徒が校外で語り部活動や平和発信に関わる機会が増えることは、大きな意義がある。しかしその一方で、定期考査や受験といった学業上の重要な節目と重なる場合も少なくない。どちらも生徒の将来にとって大切な経験であるにもかかわらず

ならず、現状ではその判断が生徒一人ひとりに委ねられる場面が多く、学校としての明確な指針を示しきれていないという課題がある。組織的な支援や調整も難しく、生徒が葛藤を抱えたまま選択を迫られてしまうこともある。

・個人の熱意に依存しがちな平和教育の実践

平和教育は、教職員や生徒一人ひとりの強い思いと献身によって支えられてきた。しかし、その分、活動が個人の判断や善意に委ねられやすく、継続性や制度的な保障が十分でないという側面もある。平和教育を「特別な活動」に留めず、教育課程や学校組織の中でどのように位置づけ、支えていくのかが、今後の重要な課題と言える。（西南）

### 〔大学・短期大学〕 13 件

◇国際社会においてだけでなく、日本社会においても、「～ファースト」が流行していることに表象されているように、利己的に生きることを良しとする空気が社会全体を覆っており、利他的に生きることの大切さが表面的には失われているように感じられます。このような状況において、特に東アジアの緊張が強調され、それに呼応する動向によって、戦争を肯定するような空気も醸成されているようにも思えます。かつて日本が起こした侵略戦争も正義の戦争であったかのように語られ、それを信じてしまう傾向も強まっているとの懸念も消えません。そして、この傾向はキリスト教主義学校の教職員も例外ではありません。しかし、実際に授業で学生に接していて感じることは、一方的な主張の教育をせず、異なる見解をも示しつつ、過去の歴史や現在を省察し、現在のファシズム的な脅威を感じさせる国や地域の状況がかつて日本が辿ったファシズムの歴史と通底するものであることを伝えることで、冷静な判断を学生にしてもらえると感じています。また、戦争が起こったなら、戦地に赴くのは戦争に踏み切った為政者ではなく、生徒や学生のみささんたちの世代であることを伝えつつ、かつてキリスト教主義学校も経験したように、第二次世界大戦のときに教職員は学校に残り、そこから生徒や学生を戦地に送り出してしまっていた歴史を振り返り、そしてそこには日本が植民地にしたアジアの生徒や学生もいたことをも想起し、もう二度とそのようなキリスト教教育や平和教育に反することはしてはいけないという反省を今一度しっかりと共有していくことが必要だと考えています。（東北・北海道）

◇平和が訪れていないところを見ると、何世紀も課題となっております。（東北・北海道）

◇日本社会の全般的な傾向として「8月平和」（日本が経験した悲惨さ）に平和教育の重心が置かれすぎている。そうした状況を是正する教育につながる教材が少ない。

（東北・北海道）

◇政治の影響により、外国人に対する排他主義が学生の間でも徐々に広がっていると感じ

ます。格差社会において学生は圧迫される側であり、マイノリティにいらだちをぶつけることによって「自分たちはマジョリティ＝強者なのに、外国人のために不利益を被っている」と思いたいのかも知れないです。スマホしか見ていない人も多いのではと危惧しています。講義で話すことが現政権の方針と合わないと「政治的だ」とクレームが出るリスクがあるため、時として微妙なかじ取りを要することもあります。

(東北・北海道)

- ◇マンネリ化、時代の経過に伴う風化。 (関東)
- ◇現代の日本社会における宗教性の欠如や、アメリカをはじめとする西洋社会、ロシアにおけるキリスト教勢力の逸脱を教えていくこと。 (関東)
- ◇キリスト教主義の大学とはいえ、教員の95%以上はノンクリスチャンであり、立ち位置(保守、リベラル)も異なるため、大学として統一した見解を示すことに限界がある。 (関東)
- ◇出来れば、実際に起こった現場を見学するのがよいと思いますが、予算と時間の兼ね合いが難しいと考えております。 (関東)
- ◇小規模校故に、教職員がご自身の校務で余力がないことと、教職課程など必要とされる科目が多く、学生が落ち着いて物事を考えたり、調べたりという時間が取れないこと。長文が読めない学生が増えてきている、ということもあります。 (関西)
- ◇大学教員の思想は多様であるため、必ずしも非戦を良しとする方ばかりではない。軍事力の強化や自国ファーストを良しとする方もいる。学内において、平和教育の理解を得るための努力が必要であることを感じている。 (関西)
- ◇・戦争の悲惨さを実際に体験し、生の体験を話せる人が少なくなっていること。
  - ・戦争に対する当事者意識や危機感が薄くなっていること。
  - ・近隣施設に行くことはできるが、遠方に行くことは経費の面で難しい。 (西南)
- ◇5歳くらいから平和教育を受ける長崎の人たちは、同じような話に「まんねり」を感じている、と言われたことがあります。(関西出身の私には驚きでした。)ある学生が「戦争で「お腹が空いた」「痛い」「熱い」「お母さん(子ども)どこいった」「両親(子ども)なくなった」「死体を見るのに慣れてしまった」というような話を小さい時からずっと聞かされて、それは本当に大変なこと、辛いことかもしれないけれど、聞きなれてしまってあきた。正直なところ眠たくなってしまおう。」とっていました。それを聞いた時は「ひどい！なんてこと言うんだ！」と怒りを感じました。が、そういう考えになってしまう平和教育のあり方にも、もしかしたら問題があるのかもしれない…とある面で感じています。 (西南)